

今回の調査位置は、同坊の西南坪から東南坪に及ぶ。調査面積は約七一〇m²である。

調査の結果、東三坊坊間路推定位置より東には七世紀後半の整地が及ばず、前記の大規模建物群が西南・西北の二坪の占地であろうという推定を裏付けることとなつた。東南坪には七世紀前半から八世紀後半にいたる建物が存在し、その状況は小治田宮との関連が指摘されている雷丘東方遺跡に類似している点が注目される。

木簡は、南北溝SD三五八〇から三点出土したが、いずれも削削で釈読できない。SD三五八〇は素掘りの溝で、幅二・九×五・二m深さ一m前後で、北流する。堆積土には木簡の他に七世紀前半の土師器・須恵器などが含まれ、溝の南辺は七世紀後半の整地土によって覆われている。

9 関係文献

奈良国立文化財研究所『飛鳥・藤原宮発掘調査概報』二六（一九九六年）

（寺崎保広）

奈良国立文化財研究所

『平城宮木簡五』刊行される

平城宮跡東南隅で一九六六年に行なわれた、第三三次補足調査で出土した約一万三〇〇〇点に及ぶ木簡の正報告書。同調査関係の三分冊中の二冊目にあたる本書では、二三三四点の木簡を収録する。木簡は考課・成選木簡を中心とする式部省関係木簡で、原寸大の写真を掲載した図版と解説からなる。解説では近年の調査で判明した式部省官衙の様相や、六〇一五型式木簡の形態的特徴や廃棄の仕方などについてもふれている。

図版 B4版 写真一〇三葉 その他四葉 帧入

解説 A5版 本文三八〇頁 その他四五頁

頒価 三一〇〇〇円（税込） 送料一七〇〇円

販売元

明新印刷株式会社もちいどの店

〒六三〇 奈良市橋本町三六

TEL 〇七四一一三一三一三一

FAX 〇七四一一六一〇〇九三